

「入院患者調査において入院継続中であった患者の現状確認と支援」結果報告

1 「入院患者調査において入院継続中であった患者の現状確認と支援」とは

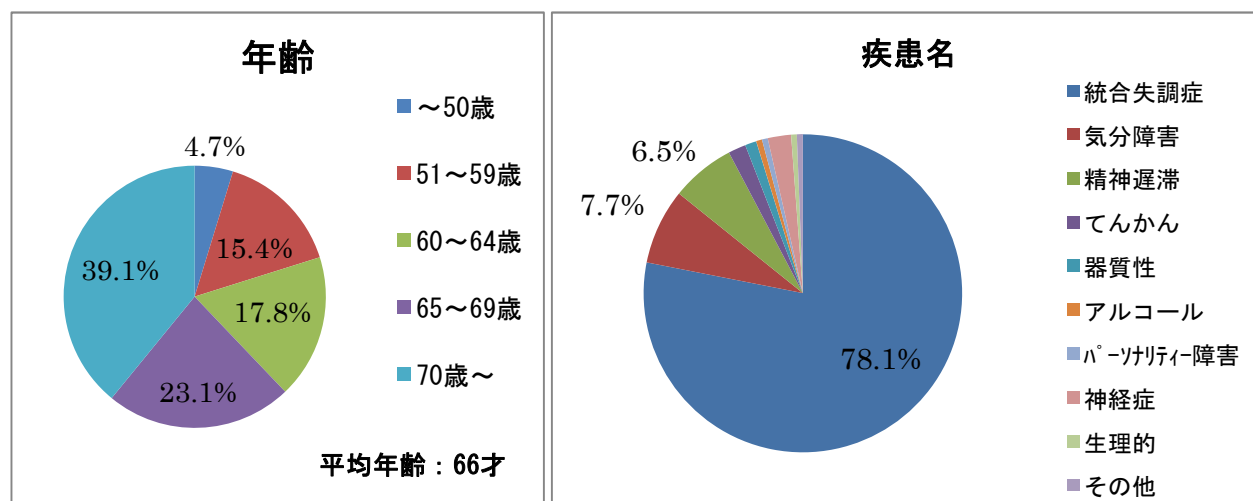
平成 18 年度より実施されていた新潟県精神科病院入院患者調査において、平成 23 年度の追跡調査の時点でなお入院継続中であった 379 人（うち主病名および副病名を認知症とする方を除く）に対して、直接ご本人と面談することにより現状確認をし、必要に応じて支援につなげるという取組を、平成 24 年度に新潟県全県で行った。

2 面談対象者の概要（新潟市内の医療機関に入院中の方）

表 1

単位：人

対象者			年齢※					主病名									
男	女	合計	50才以下	51～59才	60～64才	65～69才	70才以上	統合失調症	気分障害	精神遅滞	てんかん	器質性	アルコール	パーソナリティ障害	神経症	生理的	その他
85	84	169	8	26	30	39	66	132	13	11	3	2	1	1	4	1	1



全県の対象者 379 人のうち、新潟市内の精神科病院に入院中の方は 199 人であった。そのうち、認知症及び退院者等を除いた最終的な対象者は 169 名であった。（平成 25 年 4 月末現在）

対象者の平均年齢は 66 才で、65 才以上が全体の約 60%を超えていることから、長期入院者の高齢化が顕著であることがいえる。

また、疾患名については 80%近くが統合失調症であった。次いで、気分障害が 7.7%、精神遅滞が 6.5%であった。

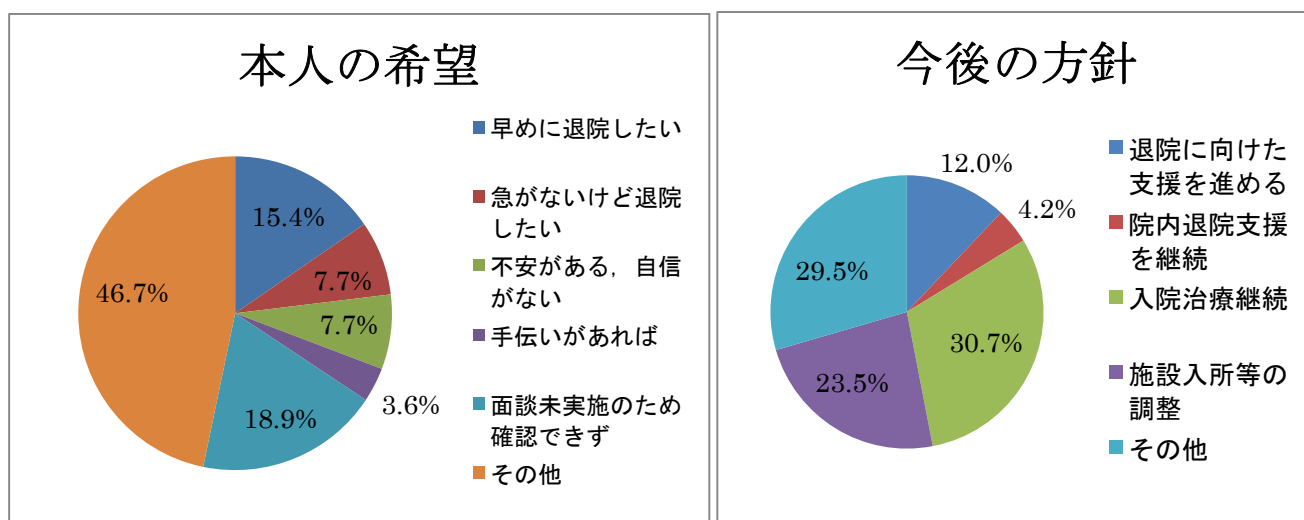
3 面談結果の概要

表 2

単位：人

面談実施		主治医 意見※		支援の取組状況※				本人の希望					今後の方針※					
実施	未実施	退院支援可能	退院支援不可	申請前支援中	地域移行支援利用中	病院内退院支援実施中	今はしていない	早めに退院したい	急がないけど退院したい	不安がある、自信がない	面談未実施のため確認できず	手伝いがあれば	その他	「地域移行支援」利用に向けた支援を進める	院内退院支援を継続	入院治療継続	施設入所等の調整	その他
137	32	107	59	2	3	36	125	26	13	13	32	6	79	20	7	51	39	49

※面談未実施者のうち、3名がチェック表未提出



対象者 169 人のうち、面談を実施できたのは 137 人で、全体の約 80%であった。未実施の理由としては、「病状により面談が不可能」または「本人の拒否」がほとんどであった。

面談を実施した 137 人に対し、退院についてご本人の意向を確認したところ「退院したい」以外の回答をされた方が約 60%と半数以上で、その内容は「退院したくない」「わからない」「考えたことがない」といったものであった。

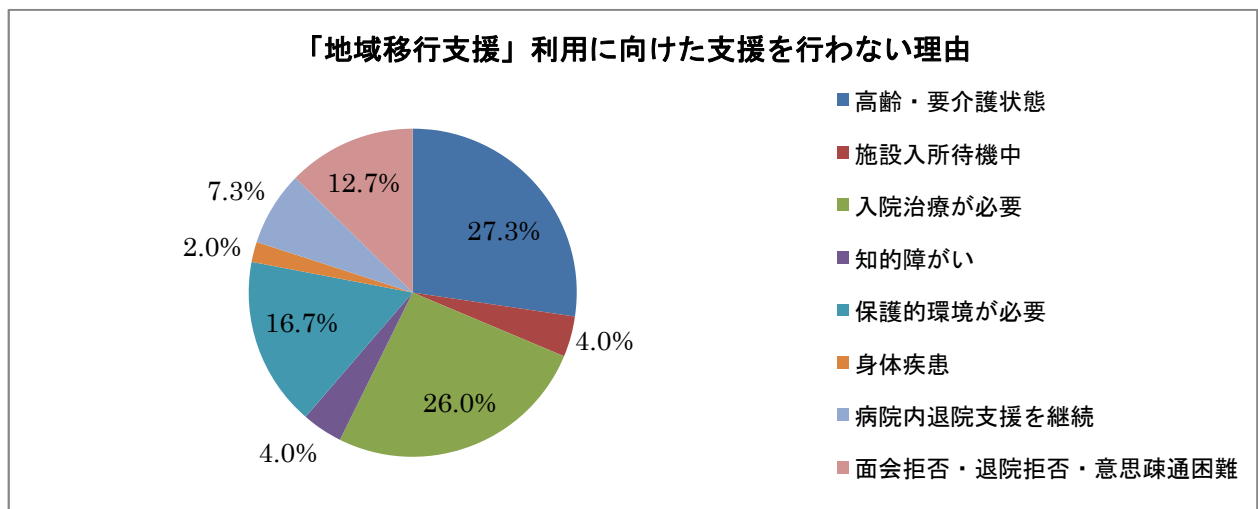
病状及びご本人の意向等を踏まえ、本事業担当者（面談実施者）と病院スタッフで、今後の支援方針について検討した結果、「退院に向けた支援を進める」となった方が 20 名で約 12%であった。

4 「地域移行支援」利用に向けた支援について

表3

単位：人

「地域移行支援」利用に向けた支援		行わない理由							
行う	行わない	病院内退院支援を継続	高齢・要介護状態	施設入所待機中	入院治療が必要	保護的環境が必要	知的障がい	身体疾患	退院拒否・面会拒否・意思疎通困難
20	149	10	41	6	39	25	6	3	19



全対象者のうち、最終的に「地域移行支援」利用に向けた支援（申請前支援）を行うこととした方が11%、行わない方が89%となった。

行わない理由としては、「高齢・要介護状態」「施設入所待機中」をあわせた約30%が高齢のため退院して地域で生活することが難しい状態であった。

また、入院治療が必要な病状ではないが、長期の疾病により生活能力や知的レベルの低下があり、見守りや声かけを行う「保護的環境が必要」な方が約16%、「知的障がい」を含めると約20%となった。

さらに、ご本人との信頼関係などを考慮しこれまで続けてきた院内退院支援を継続することとなった方も約7%となった。

5 まとめ

今回の取組から、高齢長期入院患者の問題を改めて認識することとなった。高齢長期入院患者に関しては地域移行・地域定着支援事業の取組だけでは解決が難しく、高齢者支援にかかる関係課との連携が必要である。また、長期の疾病等により保護的環境での生活が必要となっている方達の地域移行については、グループホーム等の入所施設の整備が課題となる。